



自立する生き方をたたき込む 学生たちと創るネットベンチャー

先月号でお伝えしたように、日本工業学院専門学校（NIT）の学生たちと一緒に会社を創ることになった。今月はその活動ぶりを詳しくお伝えしよう。

「どうすれば会社が作れるかよく見てろ」その日の授業からパーチャルカンパニーを立ち上げる準備に入った。3時間後にはASPをフル活用することでオンライン業務環境の構築を完成させたが、学生達は驚きもせずについてきていた。プロセスはこうだ。

学校内POPサーバーの負荷削減のため、「Hotmail」で個人メールの環境を作成。

生徒全員による「MY YAHOO!」、「BLINK」による情報収集能力強化。

生徒全員によるeGroupsへの登録。パーチャルカンパニーのコラボレーション環境基盤を確立。

生徒を順番にビジネスマン向け講演会の聴講生として招待し、ビジネス教育開始。

生徒を指導して営業内容と企業のIT化プログラムをウェブベースで作成。

OJT(実ビジネスを体験させながら学生の能力向上を図るアメリカの教育システム)にて活動開始。

なお、8月現在上記のパーチャルカンパニーは業務を開始している（Jump）。

さて、これから学生達との会社をどのように育て成果をあげていくか？ それを考えながら進めなくてはならない。まずは、明確な指導方針を立てた。

パーチャルカンパニーでいいから、会社概要と組織形態の構築を考えさせ、ホームページにアップさせるよう指導する。

年商何億とか何百店舗達成祈願とかでなく、次世代ネットワークをどのようにとらえ、なにをするべきかを考える企業を創る。

これまでの企業経緯が参考にならないという前提で試行錯誤しながら、新しい時代の新しい社会貢献とは何かを考えてゆくように指導する。

次に、学生たちを社会の場で鍛えるための具体的な訓練を開始した。

僕は新聞社や銀行での社会人向けに講演することが多い。そこで、学生達の何人かを助手として聴講



させ、HTML形式でレポートを提出させることにした。社会人の世界をかいま見ること、ビジネスとインターネットとのかかわりを理解させられると考えられたからだ。eGroupsの予定表にアップされた講演会の日取りを各自が閲覧して希望者は氏名を予定表に記入する。その中から先着順に入場の許可を出した。講演終了後のレポートは共有フォルダー内の各自のフォルダーに収納させ、メンバー全員が閲覧できるようにする。加えて、メンバーからの評価をオープンにすることで、互いの能力を確認し合う環境を創り出そうと意図した。

コンサルティング先の社員全員が電子メール、ホームページ制作などを習得できるよう、学生をインストラクターとして派遣する。これにより社会人がビジネスにおいて連絡、報告、相談をどのように行っていくのかも体験できるようになる。

その企業のホームページを学生たちなりにチェックしてリニューアルさせる。コンテンツ面ではなく、JAVA、XML、CGIなどを活用して制作能力のスキルアップを計る。コンテンツ制作はだれでもできるが、それに比例して必要となる技術者は少ない。今後は、技術者を育てることこそ重要である。

以上の事柄は述べ3日間で原形を形成するまでに至ることができた。学生達は社会はまだ知らないが後先考えずに進むパワーがある。つまり固定観念なしにスピードを出せるためにビギナーズラックに似た成果を出せるのではないだろうか。そんな期待が湧いてきている。

（Jump） good-web.net/jikken/



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp